

岐阜大学

# キャリア支援部門 ニュース

No.14  
2018.3

<https://www.orphess.gifu-u.ac.jp/career/introduction/news.html>



## 就職活動支援 —この一年を振り返って—

正村 隆弘

キャリア支援部門・就職支援室長  
学務部学生支援課課長補佐

平成29年1月に就職支援室長として着任し、一年が過ぎて思うことは、学生の皆さんにはもっと積極的に就職支援室を利用していただきたいということです。

現在は売り手市場と言われ、以前に比べて内定を得やすい状況になりました。しかし、ミスマッチが増えていることも事実です。だからこそ、就職支援室が主催する就職活動支援ガイダンスや就活セミナーなどへの積極的な参加をお願いしたいと思います。

まずは自己分析をしっかり行い、自分自身を知った上で更に視野を広げるため、出来るだけ多くの企業等の人事担当者やOB・OGの話を聴いて、本当に自分が納得してやりがいを持って続けられると思える仕事に巡り会えるまで、業界・企業研究を行ってほしいと思います。(世の中にはこんな仕事もあるという、新しい出会いがあるかもしれません。)

皆さんが就職を考えている企業等との相性や仕事内容には、本当にミスマッチが無いのか、また、自分が実際に社会へ出て仕事をしている姿や五年後・十年後にはどのように成長しているのか、将来のキャリアプランまで含めた具体的な姿までは、なかなか想像できないと思います。

自分の将来を考えないといけない今の貴重な時間を有意義に使うためにも、早くから就職支援室を利用してください。エントリーシートの添削や面接練習なども専門の資格を持った相談員が対応していますので、企業等へ採用されるためのノウハウを身に付けて、自信を持って就職活動を行っていただきたいと思います。

就職支援室では、学生の皆さんとの垣根をなくし、就職活動で困ったことや心配なことが少しでもあれば気軽に相談してもらえよう、スタッフ全員でお待ちしています。また、先輩方が残してくださった採用試験情報等の就職活動記録は、就職支援室内で閲覧することが出来ますので、ぜひ活用してください。そして、皆さんも後輩のために、就職活動記録を残してください。

学生の皆さんにとっては、自分の職業を決めないといけない大切な時期ですので、納得のいく就職活動が出来るように就職支援室スタッフ全員で、「支援」していきたいと思っています。皆さんの、「この仕事を選んで良かった」と思える気持ちが、いつまでも続いていくことを切に願っています。



キャリアセンター・就職支援室入口

## 就職活動報告

### 企業選びは慎重に、対策は念入りに

**田中 友理** (食品メーカー内定)

平成30年3月  
大学院応用生物科学研究科修了

就職活動を目前に控え、不安を感じる方も多い時期かと思えます。特に、業界や職種を絞ったほうがいいの？何社くらい受けたほうがいいの？と企業選びに迷うかもしれません。私も不安に思っていました。業界が何であろうと、可能性が低かろうと、自分が「いいな」と思った会社への気持ちは最後まで大切にしたいです。

就職活動を始めた時、私にはもともと気になっていた企業がありました。しかし、業界が自分の専攻分野ではないこと、大学にその企業の選考情報が少ないことなどが不安要素となり、途中、他の会社や官公庁を選択肢としてイベントに参加していました。なかなかじっくりくる会社に出会うことができずキャリアセンターやハローワークで相談したところ、素直に働きたいと感じた会社は絶対受けた方がいいと背中を押して頂き、諦めてかいていた企業を第一志望とし、選考対策は第一、第二志望の企業の2社に絞って行うことにしました。

第一志望の企業については選考情報が少なかったため、どんな選考でも対応できるよう企業研究や自己分析は念入りに行いました。中でも自己分析が一番時間も労力もかかりました。選考は「働きたい」と言って受かるものではないので、志望理由や自分の強みなどがなぜそう言えるのか、「根拠となる経験」を伝えることが非常に重要です。しかし、数年前の出来事や感情は覚えておらず、思い出すのに先輩や友人の協力が必要だったり、いざ面接練習をすると、相手に理解して貰えるように話すのは難しく言葉が出てこなくなったりと、予想以上に対策に時間が掛かりました。

結局、先に行われた第二志望の企業の選考には落ちてしまいましたが、第一志望の企業の面接では熱意が伝わったのか、無事に内定を頂くことができました。

振り返ると、たった1社の選考対策に想像以上の労力がかかりましたが、対策した分だけ本気度が伝わったと思います。だからこそ「いいな」と感じた企業は大切に、その企業への対策に時間を掛けることをおすすめします。



### 公務員試験の経験

**近藤 寛人** (県庁内定)

平成30年3月地域科学部卒業

私は高校時代に地元の市が行っている再開発事業を見たのがきっかけで、公務員を目指すようになりました。大学に入ってから、3年次に市のインターンシップに参加し、実際の現場を体験しました。行くことによって実際に働いている人と交流ができ、職場の雰囲気を感じる事ができるので是非行ってほしいです。

さて、公務員試験は、面接試験の前に学力試験である1次試験があります。幅広い知識を要求される試験なので、事前に勉強しておかなければ1次試験合格はなかなか難しいと思います。多くの方が、予備校に通ったり、参考書を買って独学で勉強に取り組んだりすると思います。ただ、その勉強をいつ始めたらよいかということが大事かもしれません。

私の場合は試験の約1年前から予備校に入り、勉強してきました。もちろん勉強開始の時期は早いに越したことはないです。しかし、1年前から全力で取り組むと、途中で勉強が続かなくなってくることもあると思うので、最初は1、2時間位でいいと思います。勉強をするだけではなく情報収集も大切です。インターネットなどを使って試験の日程を早めに把握するといいいと思います。

4月頃から様々な試験の申込みが始まります。試験は併願出来るので日程が被らない限り多くの試験に申し込んだ方が試験慣れできて良いと思います。私は5月から7月まで合計6つの1次試験を受けました。そのうち合格し、2次試験を受けたのは4つでした。2次試験はグループディスカッション、論文、面接などがあります。これらに対しては、キャリアセンターや友人、指導教員などに相談をしたり、練習相手になってもらったりして対策をとっていくとよいと思います。公務員試験は大学受験の頃の繰り返しです。家族や友人などにかくいんな人に頼ってほしいと私は思います。

#### ● 学生の自主的活動支援 ●

### 報告 オープンキャンパス活性化ワーキンググループ

**森山 章弘**

平成30年3月  
大学院応用生物科学研究科修了

我々は、主に応用生命科学課程のオープンキャンパスの活性化を目的に活動する団体です。平成29年4月に発足し来場者の満足度アップを目指して活動してきました。応用生命科学課程の学生が企画・運営する学生主体の活動であり、学部1年生から博士課程まで幅広い学年のメンバーで構成されていることが特徴です。このため会議では学部生のフレッシュな意見から博士課程の経験に基づく意見まで個性溢れる議論が展開されました。

発足初年度の今年は、「体感」をテーマに掲げることで、従来までのポスター展示だけではなく、新たに研究室の特色を生かした簡易実験ショーや実験操作体験などを取り入れて改革して参りました。さらに改革の一環としてパンフレットも一新し、学生視線を生かしたSNSによる宣伝や展示紹介を充実させました。実際に当日は、来場者だけでなく展示側にも活気があり、新しく生まれ変わった応用生命科学課程のオープンキャンパスを開催することができました。

課題や反省点もSNSや、来年度入学してくる新一年生などから意見を集め、次の開催に向けてさらなる進化をしてきたいです。また今年度は本課程でのみの活動にとどまりましたが、今後は他の学部・課程や学生委員会の方々とも協力し学内全体としてさらに盛り上げていけたらと考えております。



一新されたオープンキャンパス用パンフレット

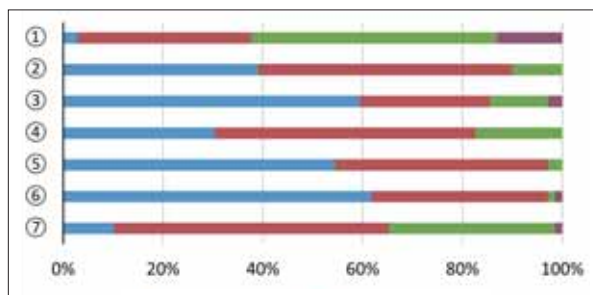
## 授業改善のためのアンケートの実施結果について

キャリア形成科目の授業改善のため、右の表に示す授業の履修者名について、アンケートを実施した。  
(回答者数69名)

年度	学期	授業名
H28	後	現代社会を支える企業
H29	前	キャリア形成論
		社会の多様な働き方
	後	キャリア形成論
		ライフコース論 (人生設計と生活保障)
		プロジェクト型インターンシップ



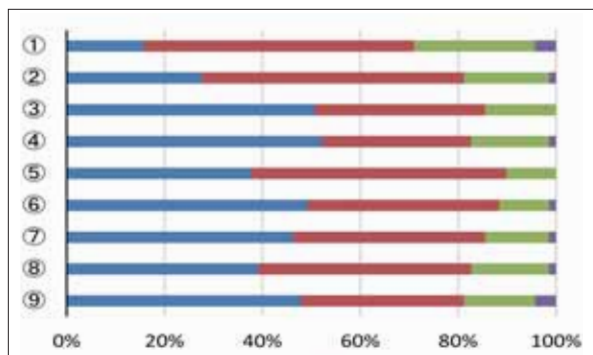
質問A. キャリア形成に関する科目ではどのような授業形態が重要であると思いますか？



- 多人数 (31人以上) の授業
- 少人数 (30名まで) の授業
- 企業や団体でのインターンシップを盛り込む
- OB・OGを講師として招く
- 産業界や企業から講師を招く
- グループ学習やプレゼンテーション、ディスカッション等を通した学生参加型の授業
- 教員から学生へ知識を伝える単方向の授業

質問Aからキャリア形成に関する科目では、総じて多人数より少人数の授業が重要であり、かつ「学生参加型」、「企業や団体でのインターンシップ」、「産業界や企業から講師を招く」といった、学生同士や企業や団体との、そして現場で活躍する人との「対面型」の授業が重要である、との結果が出た。

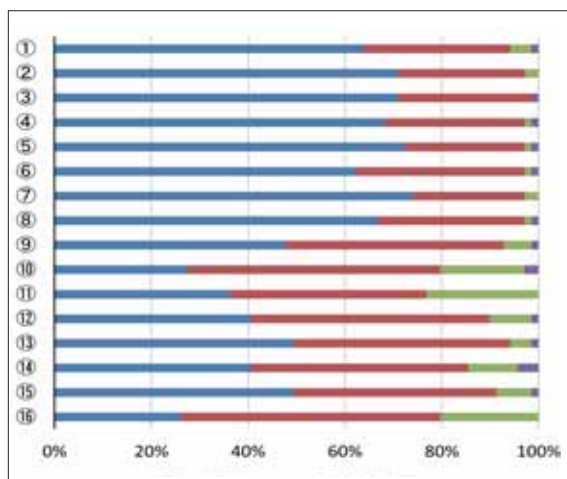
質問B. キャリア形成に関する科目ではどのような授業内容が重要であると思いますか？



- キャリア形成理論など基礎学習
- OB・OGの体験紹介
- 職業見学・現場実習などの就業体験
- 業界・企業についての情報・知識
- 将来の仕事に役立つ知識・技術
- 進路選択の考え方・方法
- 自己の個性・適性の判断
- 学ぶこと・働く事の意義
- 将来の生き方・人生設計

質問Bから「自己の個性・適性の判断」や「将来の生き方・人生設計」が非常に重要とされる割合が高いが、先の「重要とされる授業形態」に準えてみると、様々な「対面」の中から自身の個性や適性、そして将来を考えていきたい、という履修者のニーズが浮かび上がる。

質問C. キャリア形成に関する科目ではどのような力が身につくことが重要であると思いますか？



- 論理的思考力 (物事の一つの対象について論理立てて考えることができる)
- 創造的思考力 (複数の考えを組み合わせて新しい発想を生み出すことができる)
- 課題発見力 (自ら現状分析し、目的や課題を明らかにできる)
- 状況把握力 (自分と周囲の関係性を理解し、その場の状況が把握できる)
- 発信力 (客観的なデータを用いて自分の意見をわかりやすく伝えることができる)
- 傾聴力 (相手の意見を理解しながら聞くことができる)
- 実行力 (目的を設定し他者と協同して実行することができる)
- 計画力 (課題解決のプロセスを理解した上で課題の解決に向けた計画が立案できる)
- 社会に対する見方・考え方
- 友人関係の構築
- 人脈の構築
- 自分の専門と職業実践を結びつける力
- 自分に適した業界を選ぶ力
- 社会で働く意義の理解
- 社会で働く上での具体的知識・能力
- 業界・企業に関する具体的知識

質問Cから、授業を履修する学生は、授業を通じて上記のような力を身につけることが重要だと考えている。授業の形態と内容を通じてこうした力の育成に取り組んでいきたい。  
(文責：教育推進・学生支援機構 特任助教 白村直也)

## 先輩社会人寄稿

# オンリーワンのキャリアプラン

## 佐分 克三郎

昭和53年3月工業短期大学部卒業  
Kulturbruecke GINKGO GmbH代表  
ワイマール独日協会副会長



右側が本人

私はチャンスや人との交流に恵まれながら、10年を一区切りとして、大まかな目標や希望を確かめてきたように思います。私の20代後半は、ソニーがちょうどビデオ増産のためエンジニア募集の時期でした。先に入社していた親友の誘いで、チャレンジした結果、中途入社できたことは思いもよらないことでした。

ビデオ、テレビ製造技術、業務改革プロジェクトに従事。ソニーの働き方は、朝令朝改。すぐに修正対策の道を探る厳しいものでした。日中の仕事の成果と問題点は、夕方の会議で行い、帰宅はいつも22時でした。その後、40代でドイツのTV設計部にシニアマネージャとして転勤。定年後は日本とドイツの間で何かをしたいという想いがあったので、海外異動の話を決意しました。

現地のドイツ人の働き方は、まるで異なっていました。とことん議論してから製造すること、決定してからはお互いの協力・相互連絡は一切ないこと。そして、個人成果を強調していくことでした。7時～15時の就業時間厳守、超勤ゼロ、休暇100%消化、ドイツ人の勤勉像は崩れました。過労死と全く無縁の社会です。1999年、たまたま休暇でベルリンへ行き、ベルリン封鎖時代の「空の架け橋広場」に立った時、自分の使命にはっと気づきました。「日本とドイツの文化の架け橋」を創ろうと。起業した社名の由来です。50代で、私はまたチャレンジしました。当時、社内セカンドキャリアプランが提示された時期だった事もあり、定年像を見据えてそれに応募し会社を退職しました。重大な決意で難しい選択でした。ドイツでは、旧東独人の有力者の要請でエアフルト市に起業することができました。それは日本人による最初の投資でした。本業の鮎屋を営みながら、和食文化の交流はもちろん、パッハ好きが高じてのパッハ街道の日本語観光ガイド、愛知万博と2013年の日独少年少女合唱交流、2011年能舞台招聘等の伝統文化の紹介、スポーツ交流等、日本と東部ドイツ相互理解を深める現地化活動に努めました。

こうした活動に対して、思いもよらない栄えある平成28年度外務大臣賞をいただくことになりました。私のBeruf/occupationは、エンジニア。鮎屋も製造業です。エンジニアリングが要ります。商品企画から顧客満足、安全管理まで現役時代と変わりません。ドイツ社会では、キャリアが賃金を決めます。マイスター資格の有無で、あるいはエンジニアならばT1～T6の格付けでそれは決まり、会社を変わっても保証されます。キャリアは大変に重要です。定年は終焉でなく、セカンドライフで気楽に楽しく社会貢献できる始まりです。私は今67才。私のキャリアプランは、まだ少し続きます。

# 教師という職業

## 河合 鋭夫

昭和53年3月教育学部卒業



38年間の教職生活を終え、退職2年目を迎えることになった。あらためて、自分自身が携わってきた教師という職業について振り返ってみたい。

本当は世間が広い職業

よく世間では、教師は世間が狭いとか、学校の常識は、社会の非常識などと言われることがある。本当にそうだろうか。様々な職業、多様な価値観、貧困家庭から富裕層など、ありとあらゆる環境の中で生活する保護者や子ども達と直接的に深く関わり合いを持つ教師という職業こそ、世間が広い職業であるはずだ。

年度の節目を実感する職業

学校は、卒業式・入学式という行事により、児童生徒を送り出し、新たな児童生徒を迎え入れている。毎年多くの児童生徒の入れ替わりがあることは、学校で生活する児童生徒にとっても教師にとっても大きな変化である。教師という職業は、勤務校が同じであってもマンネリに陥ることなく、年度を節目として新たな気持ちに立ち返ることができる。

きっと絶滅危惧種とはならない職業

自然環境の悪化に伴い、絶滅危惧種といわれる生物の数が多くなっている。絶滅危惧種ではないが、近い将来、様々な職業が人工知能(AI)等の発達によって消滅していくという考え方が広まっている。そんな中であっても教師という職業は、絶滅危惧種とはならないだろう。教育の究極の目的は、人格の完成を目指すことである。その過程では、どうしても人と人との直接的な関わり合いが不可欠である。人工知能(AI)等に置き換えることはできない教師という職業は、絶滅危惧種とはならないはずだ。

夢を育む責任と誇りのある職業

「教えるとは、未来を共に語ること 学ぶとは真実(まこと)を胸に刻むこと」ルイ・アルゴンの言葉のように、教師という職業は、まさに子どもたちの夢を育む責任とその誇りを感じることができる職業である。

キャリア支援部門ニュース編集委員

委員長・土田 亮  
(キャリア支援部門長・(工)教授)

委員・坂口 菜朋子  
(キャリア支援部門副部門長・特任教授)

委員・白村 直也  
(キャリア支援部門・特任助教)

委員・正村 隆弘  
(学生支援課課長補佐・就職支援室長)

委員・五味 進司  
(キャリア支援部門事務担当)

●岐阜大学教育推進・学生支援機構キャリア支援部門●

〒501-1193 岐阜市柳戸1-1

キャリア支援 TEL 058-293-3393 career@gifu-u.ac.jp	就職支援 TEL 058-293-2147・3362 job@gifu-u.ac.jp	イノベーション創出若手人材養成 TEL 058-293-3492 innova@gifu-u.ac.jp
---	---	--